

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 高山 圭

論 文 題 目


Evaluation of Short-Term Outcomes of Intravitreal Aflibercept Injections for Age-related Macular Degeneration Using Focal Macular Electroretinography

(加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト3回連続硝子体注射の黄斑部網膜機能変化)

論文審査担当者

名古屋大学教授


主 査 委員

高橋 雅英 
名古屋大学教授

委員

濱嶋 信之 
名古屋大学教授

委員

勝野 雅央 
名古屋大学教授

指導教授

寺崎 浩子 

論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

加齢黄斑変性（AMD）は、黄斑部の網膜色素上皮細胞が障害され視機能を担う網膜機能が低下する疾患である。萎縮型と滲出型に分類されるが、本邦では滲出型が多数をしめる。導入期治療として 1 か月間隔で anti-vascular endothelin growth factor (抗 VEGF) を 3 回連続硝子体内投与する。当教室は以前より黄斑部局所網膜電図で様々な疾患の網膜機能を評価したが、今回、加齢黄斑変性に最新の抗 VEGF であるアフリベルセプトを 3 回連続投与し、網膜形態改善と網膜機能改善の関係性を評価した。網膜機能と網膜形態は 3 回連続投与によって改善し、網膜機能改善と網膜形態改善の度合いには相関関係があった。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. アフリベルセプト 3 回連続投与後の治療効果維持期間については、疾患の活動性によって左右されるが、追加投与が必要となる場合が多い。適切な追加時期および投与方法については、疾患の活動性と社会的状況・全身状態等を患者と相談し、抗 VEGF の定期投与、Treat and extended、Pro re nata、または光線力学療法から選択している。
2. 加齢黄斑変性の再発後の治療については、再度の硝子体投与、光線力学療法、またはそれらの組み合わせで施行している。
3. 光干渉断層計と黄斑部局所網膜電図からの治療予後予測は困難である。
4. 3 回連続硝子体投与の妥当性については、同薬剤の臨床試験で有効性が確認され、日本眼科学会の治療ガイドラインに規定されている。
5. 約半数の症例は 1 回投与で滲出性変化が消失し、2 回目・3 回目投与では網膜形態が変化しなかった。視力および網膜電図で示される網膜機能は、滲出性変化が消失し細胞代謝が改善した上で改善すると考えられる。
6. 網膜厚の治療前後の数値に相関関係はなかった。黄斑部局所網膜電図の治療前数値が良好な場合、治療後数値は良好である傾向があった。

本研究は加齢黄斑変性での網膜機能と網膜形態の関連について重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	高山 圭
試験担当者	主査	高橋 雅夫	濱嶋 信之	勝野 雅央
	指導教授	幸崎 浩子		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アフリベルセプト3回投与後の治療効果維持期間について 2. 加齢黄斑変性の再発後の治療について 3. 光干渉断層計と黄斑部局所網膜電図から予後予測の可能性について 4. 本研究前の3回連続投与の妥当性について 5. 2回目・3回目投与と視力、網膜形態、網膜電図改善との時間差について 6. 網膜厚変化、網膜電図変化と治療前状況との相関関係について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、眼科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				